

2019～2021		施設利用者年次比較		(4月～3月)			
			2019年度	2020年度	2021年度	2019対	
原作業所	通常来所人数		3,947	4,151	3,095		
	特別来所人数			616	139		
	合 計		3,947	4,767	3,234		
	前年比			120.8%	67.8%	81.9%	
オアシス	通常来所人数		2,738	1,873	1,632		
	特別来所人数			436	198		
	合 計		2,738	1,244	1,830		
	前年比			45.4%	147.1%	66.8%	
Pつばめ	通常来所人数		3,935	3,338	3,446		
	特別来所人数			725	128		
	合 計		3,935	4,063	3,574		
	前年比			103.3%	88.0%	90.8%	
そらいろ	通常来所人数		506	642	905		
	特別来所人数			180	106		
	合 計		506	822	1,011		
	前年比			162.5%	123.0%	199.8%	
	合計	通常来所人数			10,004	9,078	
		特別来所人数			1,957	571	
		合 計		11,126	10,896	9,649	
		前年比				89%	86.7%
ぷらっと	通常来所人数		8,010	3,590	4,186		
	特別来所人数		6,118	8,685	7,988		
	合 計		14,128	12,275	12,174		
	前年比			86.9%	99.2%	86.2%	

2021年度 収入と増減差額							
	サービス活動収益額				当期活動増減差額		
	前期A	2021年度B	差額B-A	前年比	前期A	2021年度B	差額B-A
原作業所	34,641,243	27,113,498	-7,527,745	78.3%	5,376,327	-150,406	-5,526,733
オアシス	21,612,320	16,605,215	-5,007,105	76.8%	-4,071,251	-6,010,294	-1,939,043
Pつばめ	40,911,080	41,009,990	98,910	100.2%	6,998,375	1,850,396	-5,147,979
ぷらっと	19,401,812	18,727,795	-674,017	96.5%	-729,607	-539,224	190,383
相談支援 センター	1,813,218	757,059	-1,056,159	41.8%	800,817	671,355	-129,462
西基幹	35,467,600	34,972,600	-495,000	98.6%	2,754,289	-2,428,362	-5,182,651
本 部	465,414	51,120	-414,294	11.0%	4,945,504	3,602,697	-1,342,807
合 計	154,312,687	139,237,277	-15,075,410	90.2%	16,074,454	-3,003,838	-19,078,292
※ 収入は総収入、授産その他含む							

就労支援事業報告

● 事業目標

- 1、「安心」「繋がり」「希望」を意識し、関わる全ての人笑顔になれる場を目指す。
- 2、仕事や人との関わりを通じて、自信や自尊心の回復、成長を感じられる場を目指す。
- 3、年間を通して安定した事業運営を行う。

● 事業報告

- ・ 昨年同様にコロナ禍にあり、感染状況を考慮し見学等の受け入れとした為、新規契約者2名に対し退所者は12名であった。退所理由は転居・死亡・体調不良や長期休所者・ステップアップ。内4名はステップアップの為
- ・ と支援効果がみられた。下半期は通所者数が停滞したが、利用者間で協同意識の高まりがみられ、利用者間トラブルは減少した。その反面、事業運営では厳しい収支となった。
- ・ 8月に非常勤1名、9月に常勤1名を採用。翌年2月に常勤1名が退職したが、入職1年目の離職者は出なかった。

つばめ工房原作業所 一日平均通所者数

(人/日)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
R2年度利用平均	16.6	18.4	17.1	15.5	13.3	16.2	17.0	15.5	16.0	15.4	16.8	15.7	16.5
R3年度利用平均	15.8	14.5	13.4	13.0	12.2	12.9	12.8	13.4	13.3	12.5	10.4	10.5	12.9
通所	15.7	13.0	12.7	12.0	11.1	12.5	12.7	13.4	13.3	12.1	9.7	10.1	12.4
在宅支援	0.1	1.5	0.7	1.0	1.1	0.4	0.1	0.0	0.0	0.4	0.7	0.4	0.5

授産への取り組み

● 活動目標

- ・ 「コロナリスク軽減」「仕事と工賃の安定提供」を優先し、下請けと自主製品のバランスを取る。
- ・ 「つばめ珈琲ドリップパック」の商品化。新たな作業の創出と、売上アップを目指す。
- ・ お互い協力しながら、やりがいと責任を持って、楽しく作業が行えるようにする

● 活動報告

- ・ コロナの影響を受け自主製品（菓子）の販売が難しかった為、委託販売を強化した。下請けと合わせ、仕事と工賃の安定提供が出来た。
- ・ 売上アップを目指したが、「つばめ珈琲ドリップパック」の商品化の過程で商品研究が進まず、頓挫してしまった。その為、新たな自主製品の企画へと切り替えを行っている。

● 課題

- ・ メンバーの高齢化に伴う身体機能の低下が多くみられる。他のメンバーでのカバーを目指しているが作業スキルが上がらず現在受けている下請けを今後も継続して受けれるか判断するのが難しい状況。
- ・ 下請けの検品やシフォンケーキの型外し、ラッピングなど、スタッフが担わなければ収益とならないものが多い。

その他

● 実習の受入

- ・ 令和3年度は6月に麻生医療福祉専門学校から1名フチガミ医療福祉専門学校から2名、11月に麻生医療福祉専門学校から1名の計4名の実習生を受け入れた。

● 研修計画

- ・ 計画していた研修はほとんど中止。感染リスクが少ない時期や、オンラインにて参加できた研修は以下の通り。「就労支援事業所研修会」、「メンタルヘルスケア研修」、「相談支援従事者初任者研修」、「精神障害にも対応した地した地域包括ケアシステムを見据えた多職種・多機関連携研修」、「保健衛生講習」、「法人内研修（コミュニケーションスキル）」

● 年間行事等

- ・ 計画していた行事は、感染リスクを考慮しほとんど中止とした。感染対策が十分取れるもののみ行った。屋外で行った行事は、「忘年会（ランチビュッフェ）」「初詣」、「花見散策（食事なし）」
- 屋内では「クリスマス会」と「食事会」をつばめ工房で感染対策を十分に取った上で開催。食事は個別に提供。

	月	常勤	非常勤	常勤換算
R3年度 職員体制	4～8月	3	3	4.3
	8～3月	4	3	5.3

就労支援事業報告

● 事業目標と計画

- ・利用者支援：利用者のニーズ・特性に応じた支援、通所の定着、ペースの維持・向上
- ・職員体制の見直し：業務内容の整理と役割の明確化、専門知識の応用
- ・就労支援：利用者に応じた就労への準備支援、就労アセスメント等の活用
- ・地域、館内連携：舞鶴地区での行事参加、あいいふ館内でのイベント協賛および協力体制の強化

● 事業報告

- ・緊急事態宣言、及びコロナ警報等の発令に伴い、喫茶において一般客の受け入れが出来ない時期があったが、館内弁当や外部からの弁当受注が増えたことで、昨年度よりは開所する日を増やすことが出来た。
- ・体調不良などから通所が停滞している利用者も多く、またコロナ禍の影響で新規の受入れも進まず在宅支援を取り入れつつ対応を行ったものの、昨年度より下回った状況である。
- ・地域行事等がコロナ禍で引き続き中止が多く、地域との連携が手薄になってしまった。
- ・1月よりサービス管理責任者、管理者が交代となり、常勤3名、非常勤3名の体制となった。

● 通所実績

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
R2年度 通所平均	通所	2.6	1.2	6.3	7.4	6.7	7.6	7.1	6.8	6.9	6.5	6.0	6.6	6.0
	在宅	6.2	8.4	1.6	0.0	0.0	0.0	0.4	0.4	0.4	0.2	0.0	0.0	1.5
	計	8.7	9.7	7.8	7.4	6.7	7.6	7.6	7.2	7.3	6.7	6.0	6.6	7.4
R3年度 通所者数	通所	5.1	4.3	4.9	5.6	5.1	5.2	6.0	5.6	5.7	5.5	5.4	5.2	5.3
	在宅	0.0	1.8	1.3	0.2	1.6	2.0	0.4	0.4	0.3	0.2	0.0	0.0	0.7
	計	5.2	6.0	6.3	5.8	6.7	7.2	6.4	6.0	6.0	5.7	5.4	5.2	6.0

授産事業報告

● 事業目標と計画

【喫茶】

- ・働き方改革：職員、利用者ともに働きやすい環境づくり
- ・メニューおよび店舗環境の見直し、充実：主力商品の創出、リピーターの確保と働きやすさ
- ・利用者主体の店舗づくり：主体的に働く一員個々の目標に沿った行動

【軽作業】

- ・訓練機会の提供：体調、能力に合わせた取り組み、他者交流
- ・一定作業の確保：安定した収入源、請負作業の取引拡大または自主製品の検討
- ・個々の課題への対処力：課題・目標に沿ったアプローチ→通所意欲向上→作業効率向上

【受付～珈琲Slowth～】

- ・訓練機会の提供：利用者主体の場
- ・店舗との協同営業：技術を活かした販路見直し

● 事業報告

- ・喫茶の営業時間を10:30～16:30を継続。引き続き感染症対策を行い、パーティション及び椅子、机の消毒作業を徹底し実践している。
- ・あいいふ内のイベントの縮小（集客数減、分散化、時短化など）もあり、土日祝日の来店減少が続いていたが、各部屋への弁当配達及び近隣施設（ふくふくプラザ等）への弁当配達依頼が増え、少しずつではあるが売り上げが持ち直しつつある状態となっている。
- ・Slowthは閉店継続。次年度は喫茶のメンバーが増えることもあり、時期を見て再開については検討を行っていく予定。
- ・R4.6月からの新規開所事業所からの昼食弁当について契約を進めている状況。
- ・軽作業は、（株）トーションからの下請け作業と人工毛作業を実施。要請に応じた店舗閉店時にも作業があることで、メンバーの来所受入が継続できた。

その他

● 実習生の受け入れ

- ・フチガミ医療福祉専門学校、麻生医療福祉専門学校より1名ずつ合計2名の受入を行った。

● 研修、会議等(実績)

◆会議◆

- ・あいいふ定例会
- ・福岡市精神保健福祉協議会
- ・スタッフ会議
- ・メンバー会議(利用者の会議)

◆研修◆

- ・相談支援従事者初任者研修
- ・労務管理研修
- ・サービス管理責任者講習

※申し込みを行ったほかの研修についてはコロナの影響で中止となったものもあり、十分な研修体制が取れなかった。

● その他行事、イベント

- ・花見（弁当を注文し、近隣公園の桜を見に行った）
- ・クリスマス会（喫茶店舗で開催）
- ※つばめ祭り、みんなの集い、地域の夏祭りなどは全て中止となった。

R3年度職員体制

常勤	非常勤
3	2

● 事業目標

- 1.利用者と職員が共に本来の自分を発揮し、笑顔でいきいきと過ごせる自由な雰囲気の中を作る。
- 2.利用者全員に十分に目と心を行き届け、それぞれの事情に沿った個別の支援を強化する。
- 3.作業工賃のアップを目指す。
- 4.事業所として常に前を向き、小さくても何か新しいことに取り組む前進する姿勢を持つ。

● 事業報告

- 1.この2年余りコロナ感染が続いており、消毒手洗いなど感染対策を行いながら活動を行っている。
利用者、職員の感染は今までのところないが、家族、同じグループホーム入居者などの感染により数日間利用を見合わせてもらう事態も数回あった。また料理実習、近辺以外への外出行事は中止した。
- 2.国のICT機器補助金を受けることができ、100万円相当のICT機器数台を整備することができた。
- 3.請求ソフトを導入し、スタッフの仕事の合理化が進んだ。一連化した記録、個別支援計画、請求の電子システム化により、作業効率が格段に上がった。ICT機器導入とあわせて効率的に作業を進めることが可能となった。

ピアつばめ B型 一日平均通所者数													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R2年度	17.5	18.9	17	16.2	16.1	15.7	16.1	16.8	17.4	16.9	16.7	14.9	16.7
R3年度	15.3	15.5	14.8	13.9	14.0	15.0	15.0	14.9	14.1	13.4	14.2	12.9	14.4
(通所)	14.9	15.1	14.4	13.5	13.6	13.5	14.6	14.6	13.9	13.1	13.4	12.3	13.9
(在宅支援)	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	1.6	0.4	0.3	0.2	0.4	0.8	0.5	0.5

授産への取り組み

● 活動報告

- 1.帳合の部数が多いため、毎日帳合作業を行っている。単調作業のため気分転換がなかなかできず、疲労を貯めこんでしまう利用者もいる。
- 2.毎日の作業が決まっているため、細かい指示がなくても積極的にてきぱき動ける利用者が増えた。自分で考えて自発的に動けることを大切にしたい。
- 3.福岡市から入札にてゴミ袋封入の仕事をいただき、高賃金で請け負うことができた。
利用者のボーナスを大幅にアップして還元し、皆さん大喜びだった。一年契約で3月で終了した。

● 課題

- 1.通所率のアップ。最近通所者が減っているので、まずは少しでも多くの通所者を確保したい。
- 2.作業がいつも同じでマンネリ化している部分がある。同じであることに安心感もあるが、利用者にとってやりがいのある魅力的な仕事を得ていきたい。
- 3.今年度は利用者間のトラブルがよく発生した。その後のフォローをしっかり行い、誹謗中傷などのない和気あいあいとした楽しい雰囲気の中を保っていきたい。

その他

● 実習の受入

麻生医療福祉専門学校、西南学院大学

● 職員研修

サービス管理責任者新任者研修
福祉サービス苦情解決従事者研修会
救急法研修会、福祉レクリエーション研修
その他オンライン研修各種(LITARICO仕事ナビなど)

● 行事

福岡市博物館、美術館見学（ミイラ展、ゴッホ展）
友泉亭紅葉狩り

R3年度職員体制			
常勤	3名	合計	6名
非常勤	3名	常勤換算	3.8名



レジンアクセサリ

令和3年度 自立訓練（生活訓練）事業報告

● 事業目標

- 1.安心できる居場所であると同時に、夢に向かって前進できる場所を作る。
- 2.自立し安心して楽しく日常生活が送れることを目的としてプログラムを行う。
- 3.利用者の自尊心の回復と生活上の目標の設定を支援する。
- 4.それぞれの個別支援計画に基づき、一人一人の状況に応じた個別の支援を充実させる。

● 事業報告

- 1.バリエーションに富んだプログラムを多く企画した。利用者が興味を持って取り組める内容を考え、企画した。コロナ禍で利用者が鬱屈した気持ちを抱えがちなので、気分転換できる楽しい内容を検討した。
- 2.来所が困難なメンバーに対して訪問を開始した。自宅を訪問して、相談や買い物、散歩などに付き添い、それを機会に通所への壁が低くなった。
- 3.初めて2年間の期限終了の利用者が3名出たが、1名はピアつばめB型への移行、2名は1年延長となった。2名については残された一年間で適切な移行場所を探し、できることを計画的に増やしていこうと考えている。

ピアつばめ そらいろ 一日平均通所者数													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R2年度	2.9	3.6	4.0	3.3	3.1	3.3	2.7	2.8	3.6	3.8	4.3	3.6	3.4
R3年度	3.3	3.3	3.4	3.5	4.2	3.3	3.7	4.0	5.1	5.8	5.8	4.7	4.1
(通所)	3.0	2.9	3.0	3.1	3.5	2.7	3.1	3.5	4.5	5.1	5.7	4.4	3.7
(在宅支援)	0.3	0.4	0.4	0.4	0.7	0.6	0.6	0.5	0.7	0.7	0.2	0.3	0.5

● 活動報告

- 1.そらいろ卒業後のB型等への移行を想定して、作業訓練の時間を増やした。B型の帳合作業等に参加し、作業が集中して行えるようになった。作業が気に入る、早くB型に行きたいという声も聞かれている。
- 2.活動では一週間に一度程度畑作業を行い、自然の中で草取り、植え付けなどを行っている。リフレッシュできる環境の中で作業もはかどり、畑もきれいに整地され収穫量も増えてきた。
- 3.季節に応じてさまざまな制作を行った。ステンシルを施したエコバッグは商品化し、老人施設から一年間にわたってまとまった注文を受けた。
- 4.コミュニケーションが苦手なメンバーが多く、仲間との会話も難しい。SSTを取り入れ、興味を持ってもらうためゲーム方式で実施した。

● 課題

- 1.毎日の通所が難しいメンバーが多い。安定して通所できるメンバーをさらに迎える必要がある。
- 2.利用者と支援者の距離が近いため、支援者への依存が生まれやすい。適度な距離感を保つことが理想だが、現実には難しい。また、人数に対して部屋が狭くメンバー間の距離が近くゆとりがない。
- 3.訪問を開始したが、時間が長引く傾向がある。訪問担当スタッフへの依存も強まり、スタッフにも負担感が生まれつつある。
- 4.二年間の期限があるため、常に新規利用者を確保していく必要がある。毎日通所してくれていた利用者が複数卒業すると、運営的にはかなりの痛手を受けてしまう。

その他

● 実習の受入

B型に準ずる

● 職員研修

B型に準ずる

R3年度 職員体制	
常勤	常勤換算
2	2



秋月にて紅葉狩



重留の畑

西区第1障がい者基幹相談支援センター

地域生活支援拠点等の整備事業報告

● 事業目標と計画

1 区ごとのネットワークの構築

- ・全体研修の実施『虐待防止について』
- ・事業種別研修の実施

2 区内の相談支援事業所のネットワークの構築・専門的な指導・助言・人材育成

- ・相談支援事業所『西区相談あつまろう会』の実施

①介護保険との連携

②発達障がい者支援センターの役割

③医療連携の在り方

- * コロナウイルスの影響により『主任ケアマネとの事例検討』については次年度延期

4 地域福祉の基盤づくり

- ・『ペアレントメンターカフェ』の開催

- * 参加者の範囲、及び周知について通級指導教室、ゆうゆうセンターと調整

- ・『ひだまりぐらし』

- * 内浜中学校、ひだまりの会と連絡調整

- ・福岡県性暴力加害者相談窓口

- * ケース検討、双方役割理解

- ・介護ネットワーク西部会議

- ・要保護児童連絡協議会

- ・西区特別支援教育連携協議会

- * 上記参加

5 緊急時の対応についての取組

- ・西区部会防災検討委員会の発足

- * 西区総務部安心安全係防災担当と共同実施、西区部会にて研修の実施

相談支援報告

● 新規相談件数

- * 新規別紙参照

その他

● 職員研修・講師

【研修】

- ・区障がい者基幹相談支援センター相談支援専門員研修年度計画に基づき参加
- ・福岡県相談支援従事者専門コース別研修【人材育成】

【講師】

- ・相談支援者初任者研修
- ・ピアサポート講座
- ・家族講座
- ・西区民生委員児童委員協議会〈障がい者部〉
- ・発達障がい親の会「あすなろ」

R3年度職員体制

常勤

5

常勤換算

4.8

第 2 1 の 3市町村における相談支援

(障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律)

03002134022

年表都道府県・指定都市・中核市

都道府県
指定都市名福岡市
中核市

令和03年度分報告

(相談支援を利用している障害者等の人数)

	実人員 (1)	身体障害 (2)	重症心身 障 害 (3)	知的障害 (4)	精神障害 (5)	発達障害 (6)	高次脳 機能障害 (7)	その他 (8)
障 害 者 (01)	461	106	10	125	161	39	16	48
障 害 児 (02)	10	0	0	8	1	7	0	1
計 (03)	471	106	10	133	162	46	16	49

(相談支援事業の実施体制)

	市町村直営で実施		委託相談支援 事業所で実施 (3)
	障 害 福 祉 主管課で実施 (1)	直営相談支援 事業所で実施 (2)	
身 体 障 害 (04)	0	0	0
知 的 障 害 (05)	0	0	0
精 神 障 害 (06)	0	0	0

(支援方法)

	訪 問 (1)	来 所 相 談 (2)	同 行 (3)	電 話 相 談 (4)	電 子 メ ー ル (5)	個別支援会議 (6)	関 係 機 関 (7)	そ の 他 (8)	計 (9)
件 数 (07)	137	39	74	704	27	14	584	74	1,653

(支援内容)

	福祉サービスの 利用等に関する支援 (1)	障害や病状の 理解に関する支援 (2)	健康・医療に 関する支援 (3)	不安の解消・ 情緒安定に 関する支援 (4)	保育・教育に 関する支援 (5)	家族関係・ 人間関係に 関する支援 (6)	家計・経済に 関する支援 (7)	生活技術に 関する支援 (8)	就労に関する 支 援 (9)
件 数 (08)	505	243	190	568	22	184	88	73	68
(再掲) ピアカウンセラー (09)	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	社会参加・ 余暇活動に 関する支援 (10)	権利擁護に 関する支援 (11)	その他 (12)	計 (13)
件 数 (08)	37	16	401	2,395
(再掲) ピアカウンセラー (09)	0	0	0	0

● 事業目標

- ・地域で暮らす障がい者やそのご家族をはじめ、地域の方、関係機関、職員が互いにつながり、支え合いながら誰もが安心して過ごせる居場所づくりに努める。
- ・地域交流を図り、誰もが役割や楽しみを見出せる社会づくりを目指す。
- ・職員の成長のため、研修会などに積極的に参加する。

● 事業報告

- ・コロナの影響で閉塞感や孤立感を募らせる利用者も多く、関係機関と連携して情報を共有しながら見守り、温かいコミュニケーションや手作りの食事提供に努めた。
- ・ピアスタッフを中心にコミュニケーションの基礎となる活動を地域ボランティアの協力を得ながら行った。
- ・職員各々が自分の役割に応じて自己研鑽を深め、実務に活かせるよう努めた。研修にも積極的に参加した。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	1日平均
登録者数 累計	R2年度	106	106	115	116	117	118	121	123	62	69	71	73	
	R3年度	77	80	82	83	84	86	88	39	62	66	71	77	
来所者数	R2年度	142	109	369	376	434	321	426	424	474	311	313	403	16.6
	R3年度	419	337	355	355	304	326	389	442	507	471	424	517	19.6
電話相談 件数	R2年度	724	839	713	935	763	606	626	607	700	702	701	769	35.2
	R3年度	563	673	624	600	598	638	668	666	723	721	703	811	32.3

I 型事業への取り組み

● 目標・課題

1. 個別支援の充実
2. 地域との連携強化
3. 人材育成の強化

● 具体的な内容

1. 情報漏洩に配慮しながら風通しの良いところで相談に応じ、利用者の困りごとや不安の軽減に努めた。
利用制限の中で、活動は利用者主体となるよう意識し、自尊心回復や意欲向上につながるよう工夫した。
孤立感を軽減するために利用者同士のかかわりにも配慮した。心の安定のために手作りの食事提供を継続した。
2. 新たな活動に地域ボランティアの参加協力を得ることで、障がいへの理解の促進に努めた。地域での障がいサービス事業や訪問看護の広がりに伴い、各所と連絡を取り合って情報を共有し利用者が安心して地域生活を送れるよう努めた。
3. 職員各々が役割に応じて自己研鑽を深め、各自が持てる力を精一杯発揮しようと努めた。
研修にも積極的に参加し、振り返りや意見交換を行うことでさらに意義を深めた。

その他

● 実習生の受入

西南学院大学、九州医療専門学校、フチガミ医療福祉専門学校より計4名の実習生を受け入れた。

そのほか、西南学院大学より1日体験実習生を1年間で計26名受け入れた。

実習生に精神保健について理解を深めてもらうと同時にスタッフも改めて学びを深める良い機会となった。

● 職員研修

防火管理責任者更新講習(1名)受講。

精神保健福祉センター、人権啓発情報センター、地域生活定着支援センター等によるオンライン研修を受講した。

早良保健所の家族教室にてピアスタッフが講話を行った。

ピアスタッフ2名が西南学院大学の授業で体験談や地活の役割について講話を行った。

● 居住サポート事業

地域にグループホームの新設が進み入居者が増えており、見学同行や必要な手続きに関する相談、転居後の生活に関する支援等を行った。その他、一人暮らしの生活相談や近隣トラブル等の相談にも応じた。

● 新たな取り組み・その他

来所が難しい利用者にも支援が行き届くような、訪問を主とした生活訓練事業の立ち上げの検討を進めている。
施設家賃負担を減らすため、転居に向けて今年度はのべ14件の物件を検討した。
市へ、利用者数に応じた補助金の増額やピアスタッフ配置を機能強化事業とする要望書を提出している。

R3年度 職員体制	常勤		非常勤		常勤換算
	4月～11月	12月～3月	4月～11月	12月～3月	
	2	3	3	3	